

展示品の
みどころ

しんせんえんしょう うきょうほうどうじょうず
神泉苑請雨経法道場図

重要文化財

1幅
紙本墨書 墨画 淡彩
縦141.5cm 横86.9cm
鎌倉時代(13世紀)
当館



神泉苑は、平安京大内裏の南東に天然の泉と低地を利用して営まれた園池で、9世紀後半以降、池に棲むと信じられた龍王に雨乞いを行う道場として定着していった。本図は、雨乞いの修法の一つである請雨経法を、鎌倉時代の醍醐寺座主・実賢が執り行った際の様子を伝える写本である。

請雨経法は、大阿闍梨と伴僧による密教修法(壇法)や読経、龍王の供養、陰陽師による五龍祭などを組み合わせた複雑な儀式である。しかも7日間など期限を定めて行われ、もちろん成功するとは限らなかった。本図にも、修法壇・読経所を設けた仮屋、その屋上に立てた13本の幡戟、部外者の出入を禁じる立札などが描かれており、これらは大阿闍梨の威信をかけた修法の研究材料として書き伝えられたわけである。

実賢には請雨経法を3度行った記録がある。1度目の延応2年(1240)は期限を延長して辛うじて務めを果たし、2度目の寛元2年(1244)は期限内に雨を降らせたが、3度目の宝治元年(1247)は失敗に終わっている。本図の内容は、1度目の絵図に2度目の変更点などを追記したもので、実賢の試行錯誤を伝えるものといえる。3度目の事例に本図が触れていないのは、やはり理由があるのだろうか。

画面左上の朱書によると、本図は西大寺を再興したことで知られる叡尊が、弘安2年(1279)に写させたものであるという。叡尊の署名は自筆と認めたいが、ほぼ同時代の写本と考えられている。鎌倉時代の神泉苑の実態を伝える絵図として貴重なだけでなく、龍王の存在を思わせる勢いある水の描写など、絵画的な見ごたえもある。このたび1年間の解体修理を終えてのお披露目となる。

樋笠 逸人(当館学芸部研究員)

◆特集展示「新たに修理された文化財」にて展示

あいぜんみょうおう ざ ぞう
愛染明王坐像

重要文化財

1軀
木造 彩色・截金
像高26.2cm
建長8年(1256) 快成作
当館



像高1尺(約30cm)に満たない小像ながら、あざやかな彩色と繊細な金銅製装飾が目をはく愛染明王像。台座裏の銘文及び像内に納入されていた「瑜伽瑜祇経」の奥書によれば、建長8年(1256)に叡尊の弟子寂澄が願主となり、快成を大仏師として山城国相楽郡東小田原(現在の京都府木津川市加茂町)の随願寺において造立された。像容を小作りにとまとめた穏健な作風や、各部の明快な彫り口には快成の持ち味が発揮される。

本像は伝来不詳とされてきたが、第2次世界大戦以前には実業家として著名な朝吹英二や武藤山治の所蔵だったことが確かめられる。さらにさかのぼって、明治39年(1906)に奈良・興福寺の境内で撮影された仏像写真(同寺蔵)に写り、その後益田英作(益田鈍翁の末弟)の手に帰した愛染明王像の存在が知られるが、本像はこれと大きさや像容のみならず光背や台座の形式まで一致し、各腕の後補箇所も共通するとみられることから、すくなくとも明治39年の時点では興福寺にあった可能性が高い。

13世紀中頃の興福寺では、建長5年(1253)に快門が弥勒菩薩像を造立し、長快が十一面観音像(三重・パラミタミュージアム蔵)を造立するなど、名前に「快」字を有する仏師が旺盛な活動をみせた。これらは、大乘院をはじめとする興福寺の院家や大乘院末寺の造像に関わったとみられる快慶の事績を承けたものであろう。本像は興福寺末寺だった随願寺からある時期に移坐された可能性もあるが、かりに造立当初より興福寺に安置されたとすれば、その名からやはり快慶の系譜を引くと考えられる快成と同寺との関わりを具体的にしめす存在となり注目される。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

◆10月3日～ 名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(10月～12月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

- ・特別陳列、特集展示、名品展は、金・土曜日は午後8時まで(12月29日・30日を除く)。
- ・「第69回正倉院展」会期中、月～木曜日は午前9時～午後6時、金・土・日曜日、祝日は午前9時～午後8時。
- ※いずれも入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
- ※毎月22日にご夫婦で観覧される方は各半額、11月22日にご夫婦で観覧される方は無料になります。
- ※中学生以下の方と一緒に観覧される方、冬休み期間(12月・1月)で開館時間延長日の午後5時に以降に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもといっしょ割引・レイト割引)。
- ※11月18日(土)・19日(日)(関西文化の日)、12月17日(日)(おん祭お渡り式の日)は無料観覧日となります。

■休館日／毎週月曜日

- ・「第69回正倉院展」の会期中については無休。
- ・10月9日(月・祝)は開館し、10月10日(火)は休館。

第69回 正倉院展

	一般	高校・大学生	小・中学生	親子ペア
個人(当日)	1,100円	700円	400円	—
前売・団体	1,000円	600円	300円	1,100円
オータムレイト	800円	500円	200円	—

- ※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は10月27日(金)までです。
- ※親子ペア観覧券は一般1名と小・中学生1名がセットになった割引観覧券です。
- ※前売のみで、販売は主要プレイガイド、コンビニエンスストア(一部)に限ります。
- ※オータムレイトチケットは、閉館の1時間30分前から入場できる当日券です(当館当日券売場のみで、閉館の2時間30分前から販売します)。
- ※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券を400円でお求めいただけます。
- ※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。



【交通案内】近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「水室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。